

## 小田原市教育委員会臨時会会議録

1 日時 平成26年7月31日(木)午後7時00分～午後9時00分

場所 小田原市役所 601会議室

### 2 出席した教育委員の氏名

1番委員 山田浩子(教育委員長職務代理者)

2番委員 栢沼行雄(教育長)

3番委員 萩原美由紀

4番委員 和田重宏(教育委員長)

5番委員 山口潤

### 3 説明等のため出席した教育委員会職員の氏名

教育部長 関野憲司

教育部副部長 露木幹也

教育総務課長 柏木敏幸

教育指導課長 市川嘉裕

指導・相談担当課長 鈴木一彦

教職員担当課長 田中修

(事務局)

教育総務課総務係長 濱野光利

教育総務課主査 小林隆

### 4 協議事項

(1) 平成27年度使用小学校用図書の採択に向けての協議について (教育指導課)

### 5 その他

### 6 議事等の概要

(1) 委員長開会宣言

(2) 会議録署名委員の決定…山田委員、栢沼委員に決定

(3) 協議事項 (1) 平成27年度使用小学校教科用図書の採択に向けての協議について

教育指導課長…それでは協議事項(1)の「平成27年度使用小学校教科用図書の採択に向けての協議」についてご説明申し上げます。前回の29日の臨時会において、6種目の教科について採択に向け、協議していただきました。

今日は、残りの5種目について協議していただきます。具体的には音楽、図工、家庭、保健、生活の5種目について協議をいただき、2社から3社に絞り込んでいただきます。そして、次回の8月7日の臨時会において、採択をしていただきます。すでに県教育委員会が作成しました「調査研究資料」や、小田原市の調査員による「調査研究報告」についてはすでにお読みいただいておりますので、本日も各教育委員のみなさまが、独自に調査研究していただいたものをもとに協議していただき、小田原の児童にとって、もっともふさわしい教科書を選んでいただくこととなりますので、よろしく願います。なお、本日A4両面刷りの資料「平成27年度使用教科用図書小田原市教科用図書採択検討部会の意見」として、過日おこなわれた部会のみなさまからのご意見をまとめましたので、参考にしてください。よろしく願います。

和田委員長…先日7月29日に実施いたしました、教科用図書採択のための協議の続きを始めます。今回は、音楽、図画工作、家庭、保健、生活の5種目についての協議を行います。前回同様、教育委員のみなさんには積極的にご意見をいただきますよう、よろしく願います。教科別に協議いたしますが、最初に教育長から協議の観点ということで、いくつか絞った形で、発言をしていただきます。教科ごとの観点は、たくさんあるのですが、共通するものがたくさんありまして、その中から教科の特徴という観点でいくつか絞って行くことになっております。前回、説明が不足しておりましたので、今回、改めて申し上げます。協議の進め方として、観点をあげますが、その一つ一つについて、協議するというのではなくて、観点をあげていただいた後に全体について委員からご発言いただくことにしたいと思いますので、よろしく願います。

## ①種目 音楽

和田委員長…それでは、最初に音楽から始めます。前回と同様に県教委からの資料、小田原市の調査員の先生方が作成した調査票を、みなさんは詳しくお読みいただいて

いますので、今日の音楽の協議の際の柱として、まず最初に教育長から、いくつか観点を絞り込みたいのですが、いかがでしょうか。

栢沼教育長…音楽の教科書採択における内容選択の観点としては、「1 学習指導要領における改善事項である「言語活動の充実」と音楽科の改定の要点である「音楽づくりの学習の充実」は図られているか。」「2 社会的状況を反映した題材を取り上げ児童が興味を持って学習できるよう配慮されているか。」「3 表現や鑑賞および共通事項の学習相互の関連が図られているか」が挙げられます。

和田委員長…それでは、観点と全体を含めまして、みなさんからご意見をいただきたいと思っています。

山田委員…音楽という教科は楽しく学ぶということが大切ですが、高学年になりましたら、素晴らしい音楽に触れて、芸術を愛する喜び、感じる喜びというところまで味わってほしいと思っています。そのためには、より良い題材、それから昔から愛されていますクラシックの音楽や、日本のわらべ歌や童謡や日本のより良い音楽、伝統文化等も取り上げてほしいと思っています。それから、小学校の場合は、クラスをまとめるという意味でも、合唱や合奏がとても大事だと思うので、そのような題材も気を付けて見ました。教育出版社も教育芸術社も本当によく研究されていて、甲乙つけがたいところだと感じます。ただ、違うところを挙げますと、1年生は、音階、ドレミファソラシドを学ぶのですが、教育出版社は、サウンドミュージックのドレミの歌を例にとり、階段を1つずつ登るような形で、ドレミファソラシドを表し、段々音が高くなっていくということを1年生でも理解しやすいように工夫されていると思いました。教育芸術社は、2年生のところで、音階を縦1列にドレミファソラシドを表しているところが、少し解かりにくいと感じました。鍵盤ハーモニカを習いますが、ピアノとか鍵盤ハーモニカは、指の形を最初に覚えることが大事で、タッチの仕方を間違えて覚えると直りにくいのですが、教育芸術社は、指の構え方が上から見ただけではなく、横から見た写真を載せているのが大変良く、指の形を子どもたちが把握しやすいのではないかと思います。それから、教育芸術社では、5年生の詩と音楽を味わおうというところで、小田原ゆかりの北原白秋の作詞、山田耕作が作曲した「まちぼうけ」という昔から歌われている曲が大きくページを割いて、詩とイラストで物語風に解かるように工夫して書いてありましたが、とても良かったと思います。それから、教育出版社は、3年、4年、5年の巻頭に国内外で活躍している素晴らしい日本の音楽家をご紹介しておりますが、子どもたちへのメッセージをいただいているのですが、音楽の持つ素晴

らしさを発信していて、ピアニストの辻井伸行さんとか、バイオリニストの五嶋みどりさんとか本当に素晴らしい音楽家を取り上げているので、これはとても良い子どもへのメッセージだと思います。あと、2社とても素晴らしく、甲乙つけがたいのですが、曲を見るときにテンポを決めますよね。どれくらいの速さで演奏するのかと決めるときに、例えば、四分音符が76～84とか、四分音符が80とか書くようになっているのですけれども、おぼろ月夜を例にとると、教育芸術社は、四分音符が76～84と幅を持たせてあり、教育出版社は四分音符が80くらいと割と限定しているのですが、もしかして迷わずに80くらいと限定した方が先生や子どもが演奏しやすいのかなとは感じました。まだ、決めがたいくらい2社とも良く作られていました。

和田委員長…専門家の話にみなさん聞き入っていらっしゃったと思いますが、いかがでしょうか。

山口委員…山田委員がおっしゃったように、どちらの会社もとても良く出来ていて、素晴らしいです。どちらでもいいと思うくらい素晴らしいと思います。それぞれの良いところを挙げると、教育出版社が、音楽の音のまとめというのがあります。それは、1、2年生と3年生から6年生と分かれていたのですが、速度や強弱という、音楽の主要な要素をキャラクターのネコを用いて、ネコが速く走るとか、もっとゆっくりだとか表現していたので、見た目には解かりやすいという印象を受けました。逆に、教育芸術社は、同じように振り返りのページというところで、大切なもの、要素の大切なものがまとまっています。それは、学年によってどんどん変わっていくのです。例えば、1音の長さということが1年生の教科書にしか載っていないで、2年生には音の長さが載ってなく、代わりに曲の速さが加わってきて、3年になると旋律の音の上がり下がりが加わるという、学年に応じて大切な要点が変わってくるなというのが、教育芸術社にはみられました。あと、1年生にとっては楽しいのかなと思ったのが、教育出版社の方に星の音楽を作ろうというところがあったのですが、みんなが知っているメロディーのその空いているところにみんなで作ろうというのがありました。迷路みたいに、スタートからゴールまで、8つ分程選ぶところがあり、自分が好きなように星を選んで行って、それをちゃんと2小節におさまる拍と、ちゃんとつなげてもどんどん並べていってもおかしくない音階が作れるようになっていて、これは作曲に近いもので、楽しいのだろうなと思ったのが、教育出版社にはありました。一方、教育芸術社は、1年生の後半くらいだったのですが、歌の部門とメロディーと楽器、鍵盤ハーモニカや普通

のハーモニカですが、そのパートと打楽器を使ったりリズムセクションのパートと3つのパートに分けて、一つの音楽を演奏するというのがありました。それは、1、2年生クラス全員で自分ができる楽器とか声を使いながら一つの曲に仕上げていくことは、きっと楽しいのだろうなと感じました。今のがそれぞれ見て良さそうだなと思ったところです。教育出版社は、折りたたんでいるページが結構あるのです。めくるときに、特に低学年には邪魔かなと思いました。折りたたんでないとだめな内容なのかというと、決してそんなこともなく、楽器の紹介とかがたたんだページにあるだけで、必ずしも美術のように大きく見せなくてはいけないというものではなかったもので、折りたたみのページがないほうが子どもたちも楽かなと思いました。

和田委員長…準専門家の山口委員からのご意見でした。専門家ではない、素人がなかなか言いにくいから、私が言います。面白いなと思ったのが、教育出版社の方で、みんな音楽時計を作ろうというところで、5年生でも色々な声で音楽を作るとか、子どもが興味を持つのではないかと思いました。教育芸術社の方にも、4年生で自然の音というものがあり、風について、タンポポの綿毛が飛んでいる、ヤシの木が強風であおられている音、静かな風、激しく吹く風とか、爽やかな風とか、耳を澄まして聴いてみたら、音楽のように聞こえるよねというような、非常に音楽はこのようにして取り組めばいいのかなという興味を教われるような感じがしました。だから、両社ともいいなと思いました。どちらかを選ぶというのは、お二人がおっしゃったように難しいかなと感じました。教育出版社で感じたのは、音楽に出来ること、心と心をつないでというページがあり、震災復興の願いを込めた活動を取り上げています。佐渡裕さんが神戸の震災の時に結成したスーパーキッズオーケストラが東日本大震災の被災地へ訪問して演奏しました。それに対し、感謝の気持ちで福島県の人たちによる和太鼓の演奏があったのです。こういったように音楽で人の交流が出来るということが提示されていて、これもいいなと思いました。専門家的な意見でなく、申し訳ないですが、単純に、子どもたちが興味、関心を持つ導入として良いのではと思いました。

栢沼教育長…両社とも、新たに規定された内容というものを踏まえて、音楽の目標がしっかり達成できる、適切な教材が掲載されていると全体的に思いました。特に、表現領域と鑑賞領域、この関連で見させていただいたとき、両社とも非常に表現と鑑賞領域を関連して学習できる題材構想となっていたという点では、評価できると思います。また、音楽活動の基礎的能力を培う学習展開の工夫はどうか

という視点で見ると、教育出版社では、巻末に音楽の素というまとめが示されています。また、鑑賞の学習には、曲の特徴をつかませる絵、付図、あるいは2年では愉快的時計とか、4年では、ノルウェー舞曲第2番、これに手を振る、手を動かす、歩く、スキーをする、こういった子どもの活動が具体的に示されている。同様に教育芸術社の方でも、絵、付図というものが掲載され、学習活動分として熊のキャラクターのアドバイスで、聴くポイントとか、指揮をする、話し合うなど、同じように音楽活動の基礎的な能力を培う、そういった学習展開が示され、大変両社とも工夫のあとが伺えると思いました。

和田委員長…いかがでしょうか。では、よろしいでしょうか。今回、2社ですので、絞り込む必要はありません。今回、みなさんからいただいたご意見、ご感想を基にして、次回の8月7日に教科書の採択の決定をしたいと思います。それでは、これで音楽の協議は、終わりたいと思います。

(異議なし・全員賛成)

## ②種目 図画工作

和田委員長…次に図画工作の教科書についての検討に移りたいと思います。図画工作は、開隆堂と日本文教出版の2社について、最初に協議の柱として観点を挙げていただきたいと思います。

栢沼教育長…図画工作の協議の観点としては、「1 児童が感性を働かせながらつくりだす喜びを味わえるように、表現や鑑賞の内容・題材が、発達段階に応じて適切に選択されていること。」「2 他教科との関連を図るとともに、基礎的基本的な技能の習得を図っていること。」「3 印刷やレイアウトが色彩豊かでバランスとれた構成になっていること。」が挙げられます。

和田委員長…それでは、協議に移りたいと思います。みなさんからご意見をいただきましたと思います。

萩原委員…開隆堂も日本文教出版も、似たような感じで、甲乙つけがたいと思います。あえてここがいいなと思うところをお話させていただきたいと思います。日本文教出版の教科書の中に、美術館が取り上げられていました。色々な作品の展示がありますが、美術缶には有名な画家の素晴らしい作品もありますが、子ども達の作品が同じように素晴らしく表現活動の場として紹介されていて、美術館

を身近に感じられるような取り上げ方が良かったと思います。例えば、造形遊び等、授業に必要なものを開隆堂が目次に全て載せてあります。一方、日本文教出版は、単元ごとに、そのページの下の方に、その日の学習に必要なものとして載っておりました。確かに、実際何が必要なのかということ子どもに解かりやすいのは、単元ごとに掲載されている方なのではと思いました。そこが違うところかなと感じております。開隆堂は、パレットコーナー、道具箱というタイトルになっていましたが、日本文教出版は、使ってみよう、材料と用具ということで、どちらかという、パレットコーナーというタイトルよりも、材料と用具と書いてある方が解かりやすいかなと思いました。

和田委員長…使う道具というか、ものを一番最初に目次のところに書いてあるのと、単元ごとに細かく書くというのは、大きな違いということ、以前、現場の先生たちの検討会議でも話題になったことだと思います。このことについて、山口委員はどうですか。

山口委員…そこは、気になったというか、随分違うなと思いました。私は専門家ではないので、何とも言えないのですが、図工当日に何も道具も持たずに学校へ行って、こういうことをやりますよと言われる科目ではないだろうと思います。あらかじめ、来週とか、次の図工では、こういうことをやるから、こういう材料を準備してきなさいよと当然言われるだろうと。だから、どのページに材料はこれを使いますよと書かれていても、どうせ、先生から言われたものをちゃんと持ってくればいいのだから、変わらないと正直思いました。2社とも同じという判断をしました。図工の好きな子は、一覧でみて、楽しそうだなとか、自分で先にやってみたいなと授業の前に見る子もいると思いますし、全く興味を示さない子もいるし、感受性の違いがあると思います。2社それぞれの考え方だと思いますので、どちらが良いのかは解かりません。

和田委員長…萩原委員の付き合っている子どもたちは、どうですか。

萩原委員…見て解かるというのが基本だと思いますので、どちらかという、調べるのが難しい子もいるわけです。そうすると、ページが飛んで、目次のところから拾うよりは、見開いたページに、学習内容と必要な道具を載せていると理解しやすいと思います。ページが変わると、何を持ってくるのかを覚えることが必要になりますが、ページを戻して学習内容を理解するときに関連付けるのが難しい場合があります。お子さんによるとと思いますが、見開きページにすべて載っていれば、持ち物の忘れ物は減るかもしれません。持ち物を持ってくるのが苦手な児童には準備は分かりやすく記載されているほうが良いと思います。

山田委員…図画工作で大事なことは、大人の価値観を押し付けないで、自由な発想で、子どもたちが感性を磨いて作品を作るということだと思のですが、それを少し考えてみました。今のお話にも結び付くのですけれども、日本文教出版の方は、各単元に片付けというところがあって、必ず片付けのことが示してあって、1、2年生は、余った紙をまとめておこうとか、5、6年生でも、使った用具は元の場所にもとに戻して、材料は種類ごとに分けようと、細かく丁寧に指導があります。1～3年生ぐらいまでは良いのですが、5、6年生、上級生になったら、そこまでちょっと親切にしすぎかなと思います。片付けについては、当たり前前のことが書いてあるので、それはいらぬのではないかと思いました。上級生の場合は、もっと自主性を重んじてよいのかと、3年生ぐらいまでは必要ですけれども。そこが気になりました。しかし、日本文教出版の中で、とても目を引いたのは、製作している子どもたちの写真がたくさん載っているところです。どれもとても楽しそうで、みんな笑顔なのです。みんなすごくいきいきとしています。それから、各単元に学習のめあてが記してあって、解かりやすくなっていました。1、2年生のくしゃ、きしゃ、ぎゅーというのでは、大きな紙袋に色々な紙を詰めて、それを自分で縛ったり、動物とか色々な形を作るというユニークな遊びが載っていて、とても良かったと思います。開隆堂は、わりと本の基礎的な方針が、個人の感性を自由にと重んじられているのかなと感じました。両社とも、子どもたちの作品を載せていて、それは必要なのですが、良い作品を子どもたちに触れさせるというのは、とても大事です。小学生は、美術館へ行く機会はなかなかないと思うので、開隆堂の方は、それを見せるということで、色々な作品が載っていて、それもユニークな作品があります。例えば、香月泰男は、反戦の絵とかを書いている方ですが、造形がかわいいものの、いわさきちひろや岡本太郎のブロンズや、俵屋宗達の犬とか、色々な作品をたくさん載せているというところが、楽しいと思いましたし、5、6年生になったら大きなページで北斎の富嶽三十六景とゴッホの夜のカフェテラスを同じページに載せているところがちょっと憎いなと感じました。ゴッホは浮世絵の影響を受けていますから、何も書いていないのですが、同じページに載せて、先生がお話されるのかなと思ったりしました。

和田委員長…他にいかがでしょうか。

萩原委員…教科書のサイズが2社違うというところがあります。開隆堂は、A4版のサイズで大きめで、日本文教出版は、2cmほど小さくなっているサイズです。保護者から言わせていただくと、ランドセルに入れやすいサイズが良く、どちら

の方が入れやすいのかなと考えてしまいます。

和田委員長…日本文教出版の方の作りというのは、單元ごとに必ず、黒板のような、掲示板があり、同じパターンで全部がされている。山田委員がおっしゃった片付けも色別で掲載され、片付けは黄緑色でなっていて、気を付けようというコーナーはピンク色になっています。非常に統一感があるのです。すっきりしていて、解かりやすいと感じました。一方、開隆堂は、振り返ってみようというコーナーで、学んだことを必ずチェックできるようになっていた、そこが良かったかなと思います。いずれにせよ、甲乙つけがたいというのが正直な感想でした。図工も2社ですので、また改めて8月7日のときに、突っ込んだ議論をしていただきたいと思います。これでよろしいですか。

(異議なし・全員賛成)

### ③種目 家庭科

和田委員長…次に、家庭科の教科書に移ります。家庭科の教科書は、東京書籍と開隆堂の2つの教科書です。こちらも2社ですので、早速それぞれの教科書についてご意見をお願いいたします。

萩原委員…東京書籍も開隆堂も同じように素晴らしい内容だと思います。親として子どもたちに伝えていかなくてはいけない伝統ある料理とか、日本の精神等、そういうことが載せられていて、私が勉強になりましたというところです。本当に甲乙つけがたいなと思います。また、社会的な観点で、環境のことを考えているところ、コメのとぎ汁の再利用とか、涼しくするためのグリーンカーテンですとか、打ち水等が東京書籍で紹介されていて、すごく良いなと思いました。

和田委員長…他にいかがでしょうか。

山口委員…家庭科はあまり得意ではないのですが、やはりどちらも良く出来ています。私は、強いて言えば、開隆堂の方が、食べるもの、食育に関する内容が東京書籍より充実していたという感じを受けました。小田原市は食育のことを一所懸命に推進していることを考えたときに、結構良いのかなと感じた部分です。あと、どちらも環境のこともすごく考えてやっています。どちらも油をそのまま捨ててはいけないとか、水を大切にしましょうとか書いてありますが、開隆堂の方は、油小さじ1杯をそのまま捨てると、それを浄化するのに、水が1リットル

の牛乳パックに 330 本必要になりますよと具体的に書いてありました。私自身もびっくりしたくらいインパクトがありました。数字で出ていたので、子どもたちにも響くのかなと感じました。

和田委員長…他にいかがですか。

栢沼教育長…両社とも、社会状況を反映した題材というのが、しっかり取り上げられていて、子どもたちが大変興味を持って、学習が進められるように工夫されているなどと思っています。東京書籍の方では、先程、萩原委員から出ました米のとぎ汁の再利用とか、グリーンカーテン、打ち水が紹介されていて、まさに環境とか日々の防災というか、こういう点について興味を持って学習できるような配慮がされている。開隆堂においては、緑のカーテン、発展学習として、トライ夏のエコ生活こういったものも紹介されておりまして、やはり環境とか防災、これらに関連した項目が取り上げられています。そういった面では、両社とも社会状況を反映した題材の取り上げ方がきちんと出来ていると評価しています。もう一つ着目したところでは、家族の一員という視点ですが、2社とも各家庭と地域とのつながりを振り返る活動が入り込んでおりまして、取り上げ方が適切であると思っています。特に、東京書籍では、学習活動を課題、そして実習、生活に生かす、こういった3つのステップで進めることで、まさに今求められている工夫する力、こういった向上が図られるようになっていると思います。また、実習の中に、自分の気持ちを伝える活動、これを取り入れられるということで、そういうことから態度の育成というものがそこに生まれて、最終的には家族の一員として、生活をより良く工夫する能力とか態度が育つような内容で、非常に評価しています。

和田委員長…他にどうでしょう。

山田委員…家庭科は、5年生から始まるので、子どもたちが調理とかミシンとかすごく楽しみに臨む題材だと思うのですが、先程山口委員がおっしゃったように、開隆堂は、初めてのクッキングというところで、今話題となっております食物アレルギーについて記してあります。卵とか使う場合は、卵アレルギーのある人は、ジャガイモに代えて入れてみようとか、食物アレルギーがある場合は、自分が食べられるものを知っておきましょうとか、ちゃんとコメントがあるので、これは大事なことだと思いました。それから、調理の手順がイラストではなく、実際の写真をカラフルに使っているの、私は、解かりやすいと思いました。それから、東京書籍は、栢沼教育長がおっしゃったように、すごく丁寧な解かりやすい作りで、3つのステップで、DO活動と学習のめあて、振り返ろうと、

それに従うとスムーズに学習ができるようになっていて、それからとても感心したのは、巻末に実際の子どもの手の大きさとジャガイモの大きさとか、実際の手の大きさとジャガイモを切るところや、包丁を使うところや、縫物をするところが実際の大きさと表しているのが、子どもたちがそこに自分の手を置いて、シミュレーションが出来るというのが、すごいアイデアだなと思いました。ミシンのところで、両社を見てみると、東京書籍は、ミシンがイラストなのですが、難しいミシンの下糸や上糸のかけ方を赤い糸で、すごく分かりやすいようにイラストで丁寧に書いてありました。それを子どもたちが見れば、糸をかけるのに、すごく役立つと思いました。それから、楽しく食事をする食育のところも、食事の悪いマナーとか、日本の伝統文化とか、もてなしの心等を取り上げていて、そこら辺はとても良いなと思いました。

和田委員長…東京書籍の日本の伝統というところで、ご飯とみそ汁をきちんと取り上げている、私にご飯派だからという訳ではないですが、これはとても分かりやすくて良かったと思ったのと同時に、日々の備えというところで、炊飯器の電源がなくなったときとか、元がなくなったときに、どうやって炊くのかというところ、防災にも通ずることだし、何もなくなったときにどうするかという、生活力というか、そういうところは、家庭科には必要な観点なのではないかと思いました。それから、山田委員からもお話がありましたように、食べるマナーというところで、お椀と箸の持ち方が表現されていました。学校給食の中で指導は難しい、食器の形によっては、できないことが多いので、マナーとして描かれていました。美しく食べるということは大切で、その人の人柄を表すのだらうと思います。国同志のトップが会食をするし、お見合いでもするかもしれないし、とにかく食べるときの美しさというのは、その人を表す訳だから、そういうことのヒントをこのようなところで、それとなく触れてくれることは、とても良いことだなと感じました。同時に、日本の伝統の中で、民芸品として各地で見られる漆器を扱っています。これも、我々日本人の生活の中では、潤いのあることではないかと思いました。もう一つ、プロに聞くというコーナーがありまして、目が向くというか、良かったと思いました。開隆堂の方はどうなのかと言うと、山口委員がおっしゃっていた油の部分で、魚が泳げるだけの水を浄化するのというところは、驚きました。洗剤のことは結構言われていますが、台所洗剤1 mLに対し、魚が泳げるようにするには、1 Lのボトル40本が必要で、油1 mLだと330本必要となる、この驚きというのは、仰天しました。こういう度肝を抜くようなものが時々出てくるのは、良いのではないかと感じ

ます。それだけではなく、やはり開隆堂の單元ごとにできたかなというところのチェックと章の終わりにも振り返ろうというチェックとさらに発展的な学習のためには、生かそうという提案をされていて、こちらも評価できるなど思いました。では、こんなところでよろしいでしょうか。こちらも2社ですので、採択の決定は、8月7日にしたいと思います。

(異議なし・全員賛成)

#### ④種目 保健

和田委員長…それでは、次に保健の教科書について協議をしたいと思います。まず、協議の観点をいくつかお願いします。

栢沼教育長…保健の教科書採択における内容選択の観点としては、「1 学習指導要領における改善事項（言語活動、伝統や文化に関する教育、体験活動等）の充実は図られているか。」「2 児童の理解や習熟の程度に応じた発展的な学習の内容の取り扱いが適切であるか。」「3 思考力・判断力が身に付き、実践的な理解が深まるよう、知識を活用する学習活動が適切に取り上げられているか。」などが挙げられます。

和田委員長…それでは、みなさんからご意見をいただきたいと思います。いかがでしょうか。

山口委員…やはりどの教科書も良く出来ています。3年生、4年生の生活のリズムとか、身体の話は、正直あまり差がありませんでした。5、6年生のものになるとかなり違いが出てきて、そこで少しずつ考えていったのですが、高学年になると活動的になってきて、自転車の運転に関する注意についてが東京書籍が一番よく出ていました。次いで、光文書院が自転車の安全に関して載せていました。また、外での活動だけでなく、保健だけではないと思いますが、広まっているインターネットの危険性について一番載せていたのが、光文書院でした。これから、どの科目でも必要となってきたり、載せているには良いことだなと思いました。あとは、AEDとか、ケガの手当てとか、熱中症も、どの教科書にも、それなりに載せているので、問題はないのですが、一時ものすごく言われて、今は少し忘れてしまわれている、冬場に問題になる咳エチケット、人にうつさないようにするために、咳のときは、必ず手で覆うか、服で覆いましょうということをごちゃんと載せていたのが、東京書籍と光文書院でした。文教社も少し

言葉では出ていたようです。あとは、新しい概念についても出ていますし、最近問題の薬物とか、喫煙、飲酒についても、だいたいどこの会社もいけませんよということは載せていたので、そんなに大きな差はつけられないのですが、先程言ったように、自転車の安全運転に関しては、東京書籍が、インターネットの危険については、光文書院が比較的良く載っていて、その点くらいです。

和田委員長…山口委員は、プロですから。ありがとうございます。

萩原委員…私も、1つ挙げるならば、光文書院で、ストレスについての詳しい説明を載せていらっしやったというところが、良いと思いました。今時の色々な事件とか、それに関わる前にストレスがたまってくるということを子どもたち本人が知る良い題材になるのではないかと思いますし、取り上げ方も良いと思いました。

山田委員…5つの会社がそれぞれ工夫しているなと思いました。萩原委員がおっしゃったように、ストレス等を小学校の時代から学ぶことは大事だと思って、そういう視点から見ました。学研教育みらいですけれども、A4版でゆったりとした紙面作りで、とても見やすくまとめられていると思いました。教科書に直接書き込むスペースがちょうどよくあり、それが良かったと思います。それから、3、4年生で身体の中で起こる変化のところで、時期や起こり方は一人ひとり違うということを全ての会社に書いてあるのですが、子どもたちは自分が他の人と違うと不安に思うので、それが何回も取り上げられて、色々不安を和らげていると思いました。それから、学研教育みらいですが、5、6年生の心の健康のところで、不安や悩みの対処の単元を4ページ使って、とても丁寧に取り扱っていました。児童の悩みに、スクールカウンセラーのことをすごく取り上げていまして、スクールカウンセラーが児童の悩みに答えるという形で、具体的なやり取りをたくさん載せていました。児童にとっては、スクールカウンセラーの存在が、身近に感じられるのではないかと思います。それから、東京書籍ですが、こころさん、げんきさんという二人のかわいいキャラクターが出てきて、子ども目線で、背伸びしないで解かりやすい作りになっていることを感じました。随所に活用して深めようという記述欄があり、自分で考えさせているところがあります。それから、生活習慣病というところの予防というのが、他の会社も少しは載せてはいるのですが、東京書籍は4ページ使っていまして、子どもの肥満とか、塩分、糖分、油の取り過ぎ等問題になっていますので、生活習慣病の予防ということ子どものうちからしっかり知識として身に付けさせているというのは、とても評価できると思いました。それから、光文書院ですが、地震や津波から身を守るというところが、たくさんページを割いていて、

防災教育をしっかり考えていると思いました。自分の安全を主体的に守る行動ができるように、考えられていました。津波のおそれがある場合、ただ逃げるのではなく、大声で津波が来る、来るぞ、逃げろと叫び、他の人に知らせながら高いところに逃げるといったこともイラストで書いてありました。また、二次災害、土砂崩れ、火災等も注意しましょうときちんと防災教育として書いてあったのが良かったと思いました。

栢沼教育長…保健学習では、非常に重要視しているのが、今言われている確かな学力の中の思考力、判断力。そして、こういった力と知識を身に付けたら、その知識をいかに活用するかという、活用能力、そういった点で、保健学習が展開していく必要があるだろうと、ここに着目して、見させていただきました。まず、学研教育みらいでは、各時間の巻末に活用というものが設けられている。習得した知識を活用して、まさに生活実践というところに結びつく力を育てようとしている点、あるいは思考力、判断力、表現力、こうした確かな学力が育つように、適切に内容が取り上げられている点で評価できていると思っています。東京書籍では、授業の山場となる場面に、学んだ知識を基に、思考、判断、表現する活動として、活用して深めようというコーナーが設けられている。また、学習を振り返ろうというコーナーでは、学習したことを生活で実践する態度について確認していく、そういった取り上げ方が非常に適切だなと思っています。光文書院では、つかむコーナーで、習得した知識を活用して、課題解決するために、学んだことを色々な場面に当てはめて考えたりとか、学んだことを基にこれからどうしたらよいのか等を見つけたり、学んだことを基に他人へアドバイスを、このようなことが出来るようになっていく、まさに身に付けた知識を活用していく能力の育成を重視した取扱いとなっている点で評価できていると思っています。また、文教社では、特徴的なのが、習得した知識を実践へと活用するための実習というものが入っていたり、喫煙、飲酒、薬物を勧められた場合、場面が設定されていて、そのときの断り方を考える、そして記入するという、まさにブレインストーミングの手法が取り入れられて、思考力、判断力、表現力といった実践的な活動がそこに設定されている点は評価できていると思っています。

和田委員長…では、私の方から、それぞれの出版社のところで、記述欄が設けられています。確認する以上は、やはり文字化するということがとても大事なことだと思います。一番多かったのが、東京書籍かなと思いました。それから、光文書院のところでは、みなさんもおっしゃっていましたが、心の健康のところ、心と身

体がつながっていること、不安や悩みの対処の仕方を考えたりしながら、最後に自分の良さを見つけて書くようにという欄があります。これは、大事だと思います。良さを文字化する、こういったきめ細かい配慮が光文書院にはあると感じました。文教社のところでは、発展というページが非常に大きく目につきました。特に、熱中症に関しては、細かく書かれていたと思います。もう一つ、山口委員がおっしゃっていた喫煙、飲酒、薬物乱用の害というところですが、今の時代に即したテーマである、脱法ハーブまで出てくることから、現場でそこまで発展させていってほしいなと思いました。学研教育みらいの方も、みなさんから発言があったところですが、犯罪から身を守るのところでは、巻き込まれないようにするにはどうしたらよいかとか、巻き込まれそうな場所等非常に良く書かれています。これも、今、車で連れ去られたり、様々な事件が頻発していますから、こういうことも取り上げてくれていて、いいなと思いました。以上です。これは、絞らないといけないのですが、みなさんどうでしょうか。それぞれ2社ほど挙げていただきたいと思います。山田委員から伺っていいですか。

山田委員…私は、3社になってしましますが、良いですか。

和田委員長…はい、どうぞ。

山田委員…学研教育みらいと、東京書籍と光文書院を挙げさせていただきます。

和田委員長…それでは、山口委員はいかがですか。

山口委員…1社だと、光文書院です。2社だととても難しく、東京書籍と学研教育みらいが接近していて、ほとんど同じくらいです。もし、3社で良ければ、光文書院、東京書籍、学研教育みらいです。

和田委員長…萩原委員はいかがでしょう。

萩原委員…光文書院と学研教育みらいです。

和田委員長…栢沼教育長はどうですか。

栢沼教育長…判断力とか、確かな学力がしっかり育っていくような教科書の編集となっている、そういう視点から見ると、学研教育みらい、東京書籍、光文書院の3つの中からどうかなという感じです。

和田委員長…とりあえず、私も言うておきます。ほとんどみなさんと同じで、学研教育みらい、光文書院、東京書籍です。私も2社でなく、3社かなと思います。そうしますと、学研教育みらいと光文書院が全員、東京書籍が4人ということです。それでは、今回、みなさんからいただいた結果で、学研教育みらい、光文書院、東京書籍の3社を次回、その中から選択をすることにしたいと思います。

(異議なし・全員賛成)

## ⑤種目 生活科

和田委員長…それでは、協議の最後になりますが、生活科の教科書についての検討に移ります。生活科につきましては、東京書籍、大日本図書、光村図書、啓林館、学校図書、教育出版、日本文教出版の7社の教科書がございます。それでは、協議の観点についてお願いいたします。

栢沼教育長…生活科の教科書採択における内容選択の観点としては、「1 社会状況（特に小1プロブレム）を反映した題材を取り上げ、児童が興味を持って学習できるように配慮されているか。」「2 自分と身近な人々、社会及び自然とのかかわりが具体的に把握できる内容になっているか。」「3 気づきの質が高まるような多様な学習活動が扱われているか」などが挙げられます。

和田委員長…それでは、みなさんからご意見をいただきたいと思います。

萩原委員…啓林館ですが、小1プロブレムに対して、イラストがたくさん使われていて、色遣いがとても優しい感じがして、1年生が見る初めての教科書としては、学校が良いイメージになるかなと感じました。チャレンジというところで、発展的な学習をするという、例えば図書館とか、公共施設等の使い方、防災についても解かりやすく、調べてみようかなという気持ちが出てくるようなところが感じられました。また、校外に学習へ行くときに持ち出すためのミニ探検ブックというものが付いていたのですが、子どもたちはよく校外学習に探検ボードを持って行くことが多いのですが、そこに冊子として持ち出すくらいの良いサイズだなと思いました。それから、啓林館の、身近な廃材を取り上げてというところで、これまでの私、これからの私とか、うれしかったことを伝えよう等が良いテーマだなと思いました。気づきの質が高まるような多様な学習活動が使われているかという観点に立つと、今年2月に障害者の権利条約に日本が批准しましたので、ユニバーサルデザインが使われている教科書があったのです。それは日本文教出版のもので、素晴らしいと思いました。私と生活というところで、その教科書の中に、例えば最初から点字が使われていたのです。他の会社は、点字や点字ブロックのことに少しは取り上げていたのですが、実際点字を触ってわかるというのは、ここの会社だけでした。障がいのある人しかわか

らないことかもしれませんし、それを生活科の中で、低学年から学んでいくということは、外に出かけて行ったときのマナーとかということにも写真入りで載っていますが、点字に触れようというときに、教科書の中で触れているというのは、素晴らしいと思いました。これが3年生、4年生になったとき、国語の点字の学習につながっていくと思いますので、生活科で捉えてくれたというのはすごく良いと感じました。写真の中に色々な国籍の人が載っているというのも、色々な会社の本にもありましたが、日本文教出版のものが目立っていました。その辺がユニバーサルデザインに着目していただいているのだなと感じました。

和田委員長…他にいかがでしょうか。生活科は教科書がたくさんありますから。活発にご意見をいただきたいと思います。

山口委員…防災の方でいくと、だいたいどこの会社も、光村図書以外6社は、地震については載せています。最近の情勢から、日本文教出版は、地震と大雨と雷、学校図書は、地震と火事と大雨、雷、そういうときにどうしたらよいかということが出ていました。ゲリラ豪雨のようなものにもある程度対応することが必要になってくる時代かなと思いますので、そこまで載せているのが良いかなと思いました。あとは、同じように、防犯になってくる部分ですが、先程和田委員長がおっしゃっていましたが、無理矢理車に入れられてしまうような事件を考えると、知らない人とか知らない車が来たときに、どういう対応をしたらよいかと具体的に載っていたのが、啓林館と大日本図書で、それ以外の会社で、良いなと思ったのが、教育出版で、暗くなる前にどうしたらよいか、暗くなる前に帰ろうということで、一緒に、留守番のとき、家に一人でいるときに、インターホンが鳴ったらどうしたらよいか、電話が鳴ったらどうしたらよいかをあらかじめ決めておきましょうということが書いてありました。それから、東京書籍は、一回、家の人と通学路を歩いて、危険な場所等をきちんと確認して、避難をする場所も相談しましょうというのが載っているのが良いと思いました。先程、点字のことを言われたので、点字を除いてそれ以外のことでは、大日本図書が良い意味での独特さがあり、良いと思ったのが、食事を作るときのことであって、炊く、煮る、揚げる等の意味が書いてあるのです。家庭科ではないのですが、日本語を大切にするには良いと思いました。あと、同じように日本語の素晴らしさを表すと思ったのが、大日本図書で、色の名前が多く出ていました。動物からとったネズミ色とか、ラクダ色とか、植物のモモ色とか、食べ物からのクリーム色、茶色とか、そういうものが、こういうものからとったの

だということが出ているのも面白いと思いました。車の中でページをめくっているとき、なんだこの真っ黒いページと思ったのがありました。夏休みの単元の中に、夜の長さはどのくらいあるか、昼の長さ、夜の長さ、夜は真っ黒のページで、裏に白い懐中電灯の部部に紙を入れていくと、夜は、こういう人がこういう所で、活動、仕事をしていますよと、暗い中に浮き上がってくるような設定で作られていて、これは、すごく面白いことだと感じました。最後に、学校図書は、巻末というか、裏表紙をめくったところに、保護者の方へというのがあります。保護者の方に、だいたい5個ぐらいですが、それぞれの単元のねらいが書いてあり、その学習のねらいを書いた色と、ページの中の色が全部統一されているので、この色のところは、どういう目的で授業を受ければいいのかと親も一緒に考えられ、児童が家の人と話したりするのが良いことだと思います。どの会社のものも、点字ブロックや、ノンステップバスが出ていますが、学校図書は、聴覚障がい者の補聴器と手話を使って授業をしている写真が出ていて、こういうものも良いものだなと感じました。学校図書がいらしていたら注文なのですが、要改善点が1つだけあって、夏の祭りという、夏の部分のイラストなのですが、夏の街で、大人も子どもも誰一人帽子をかぶっていないのです。これは今の時代、直さなくてはいけないことだと思ったので、その辺を今後直してもらいたいと思います。

和田委員長…提案付きでありありがとうございました。他にはいかがでしょうか。

栢沼教育長…特に生活科では、小1プロブレムをどのように取り上げていくかということに着目しています。そういった点で、東京書籍は、活動を通して、身に付ける習慣や技能を約束という解かりやすい表示をされている。また、健康や安全についても適切に入っていると思います。また、スタートカリキュラムについては、スタートブックというページで楽しそうに学校生活を送っている児童の写真を載せることで、学校へ行きたいという気持ちになれる、興味付けの工夫がされていると思いました。学校図書では、小1プロブレムに対応して、上巻、巻頭が絵本のような導入、ページになっていて、1年生の児童の発達段階に非常に適しているなど、よく工夫され、配慮されている点が伺われました。また、上巻では、安全のページがありまして、下巻ではチャレンジ図鑑、福祉や環境について触れていたり、社会的状況を反映した題材が適切に取り上げられているなどと思いました。もう1点着目したところは、気づきの質が高まる学習活動がどう取り扱われている点ですが、東京書籍では、みつける、くらべる、たとえば気づいたことをもとに次に考えさせるような学習活動例が組み込まれてい

ます。さらには、みつけたことから考えようとかいうページがありますし、気づきの質とか思考力を高めることが出来るように、多様な学習活動が展開されている、非常に評価できると思っています。一方、学校図書においては、身近な題材を取り上げている。地域社会と自然との関わり、これがしっかりつかめるように扱われていると感じました。また、面白いなと思ったのは、どの單元にも同じ4人が登場していて、気づきを交流しあう、交流する、そういう学習活動が随所に見られる、そういう点が特徴的だと、さらに繰り返し学習する場面が非常に多く、まさに児童の気づきの質がそのことによって高まっていく、そのことが期待させる点も評価できると思いました。

山田委員…啓林館と光村図書ですが、笑顔のことを取り上げていまして、啓林館は広がる笑顔、家の人々の笑顔を見つけよう、どうしたら喜んでもらえるか、喜んでもらえる自分も楽しいというような学びをしています。光村図書も、みんなのこにこ大作戦といって、同じように笑顔の大切さを取り上げています。1年生だったら、笑顔でしたらすぐにとり入れられるし、周りの人を幸せに出来る良い方法なので、こういうことを扱うのはとても良いと思いました。それから、日本文教出版は、最初の目次がでこぼこしていて、1年生は楽しく、触ったりして、喜ぶと思いましたが、最初のスタートに小1プロブレムの心配がありますので、スタートを楽しくしたいなということで、とても良いスタートがきれると思いました。それから、なんでも図鑑というところで、安全教室で、交通災害、「いかのおすし」というものをほとんどの教科書が載せていて、子どもたちが危険から身を守るための、いかない、のらない、おおごえでさげぶ、すぐにげる、しらせる、という「いかのおすし」が載っていたのは良かったと思います。日本文教出版のところは、子どもだけで川や海に入らないというのが取り上げられていて、二宮で小学生の海の事故がありましたから、そういうことも載せていただければと思いました。教育出版では、種の気持ちになろうと見開き2ページで、1年生が種になるというところで、仕掛けがあって、すごく楽しく学べるのではないかと思いましたが、鶏やあひるやかなへびの足、足だけしか載っていないのですが、それを何の足かと当てる、次のページに答えはありますけれども、とても子どもたちの気持ちになって作っていて良かったと思えました。それから、東京書籍ですが、やはり栢沼教育長がおっしゃったように、スタートブックで楽しい学校生活が写真で取り上げられているので、体験だけではなく、私はこうやってみたいとか、意欲や期待感をもたせるような姿勢が伺えました。それから東京書籍は、写真やイラストが細かくて丁寧で

きれいだと思いましたし、豊富に取り上げられていました。それから、通学路の安全、色々な事件が昨今ありますけれども、交通災害はもちろん、人的被害にあわないように、防犯ブザーの紹介や、「いかのおすし」の言葉を上下巻の載せて、子どもたちにきちんと身に付けさせるというところが、良かったと思います。それから、学校図書も、巻頭に楽しいイラストで、友達がいっぱい、一緒に遊ぼうとか、楽しいスタートがきれいと思いますし、私のあさがおという単元で、他社は例えば種の勉強でも、ひまわりとか色々なものを取り上げているのですが、学校図書は、あさがおだけに限定して、20ページを使って、種まきから開花、種の収穫、あさがお日記の実例を挙げながら取り上げているので、子どもたちがゆっくりとあさがおの観察に取り組めると思い、それが良いと思いました。それから、上下巻に学び方図鑑というものがあり、入ったばかりの1年生にとっては、話す、聞く、見る、育てる、遊ぶ等基本となるものを発達段階に応じて示しているものは、とても大事だと思います。大日本図書は、海や川の生き物や昆虫、季節の草花のイラストがとても丁寧で、図鑑がとても鮮明で解かりやすいと思いました。

和田委員長…みなさんがおっしゃったところは重複するから言わないでおきます。東京書籍の場合、最初のページに保護者のみなさんへというのがあります。私は、子どもたちも不安ですが、それ以上に親が不安だと思うのです。これはいいなど、心憎い配慮だと思いました。親の気持ちまで行き届いているとここで感じました。それから、野外、校外活動に出たときに、手を洗おう、うがいをしようという注意マークが必ずついている、これも行き届いていると思いました。一番最後にポケット図鑑というものがあるのですが、分冊になってなくて、綴じ込みになっています。それが2年生になっても使えるのですが、切り取って分冊化もできるようになっている。1年生にとっては、分冊がとても使いにくいので、これはいいと、小さい子どもの気持ちに沿った作りになっていると感じました。それから、啓林館と学校図書に、例えば啓林館のわくわく図鑑では、「話し方のかきくけこ」、「聞き方のあいうえお」というものがあって、それぞれにつながっていくのですが、学校図書の場合も、安全のページで、学校の見学帰りというのは、「いかのおすし」、いかない、のらない、おおごえをだす、すぐにげる、しらせるが載っています。私の記憶では、子どものときに、こういう言葉で覚えたものは、結構記憶に残るのです。だから、こういう標語のようなもので、インプットさせていくというのは、とても良い、低学年にとっては良いことだと感じました。それから、学校図書の中で、巻末に生活学び方図

鑑というものがあって、子ども自身が出来たところにはチェックできるようなものもありました。このような確認作業ができるのは良いと思いました。あとは、みなさんがご指摘なさったところで、重複しますので割愛します。みなさんからご意見いただきましたが、これでいくつか候補を絞っていきたいと思います。ご自分のご意見と他の委員の話聞いて、ご自身で7社から2社くらい絞れたらよいのかなと思います。また、先程と同じように、一人ずつ聞いていきますので、候補を挙げていただきたいと思います。

山口委員…私は、学校図書を挙げます。あとは横並びかなと思いますので、学校図書1つだけにさせてください。

萩原委員…啓林館と日本文教出版です。

山田委員…東京書籍と学校図書を挙げさせていただきます。

栢沼教育長…私は、先程申し上げた小1プロブレムを題材にして、1年の発達段階に即した、そういう取り上げ方と、もう一つは、気付きの質の高まるような教科書、このような視点で最終的に絞り込むと、学校図書と東京書籍の2社が少し他社よりも評価が高いと判断しました。

和田委員長…学校図書と東京書籍が良いと思いました。それでは、みなさんから挙げたものの結果を申し上げます。学校図書が4名、東京書籍が3名、啓林館と日本文教出版が1名ということになります。2社程度ということになりますと、学校図書と東京書籍ということになりますが、いかがでしょうか。

(異議なし・全員賛成)

和田委員長…それでは、数の多い、4名と3名ということで、学校図書と東京書籍を生活科の候補といたします。

(異議なし・全員賛成)

和田委員長…では、本日絞り込んだ結果の確認をします。音楽は、教育出版社と教育芸術社。図画工作は、日本文教出版と開隆堂。家庭科は、東京書籍と開隆堂。保健は、学研教育みらい、光文書院、東京書籍。生活科は、学校図書と東京書籍になります。

(異議なし・全員賛成)

和田委員長…以上で、本日予定していた平成27年度使用小学校教科用図書採択に向けての協議を終了いたします。次回は8月7日に改めて全教科の教科書の協議を行うとともに、採択をしたいと思いますので、どうぞよろしくおねがいたします。

(4) 委員長閉会宣言

平成26年8月28日

委員長

署名委員（山田委員）

署名委員（栢沼委員）